

開所式

6月10日、福岡SRPセンタービル2階SRPホールにて当研究所の開所式を行いました。

式典に続き、7階研究所でテープカット・所内見学を行い、2階で祝賀会を開きました。

九州通産局棚橋局長・福岡市友池助役・福岡市議会石村議長はじめ約100名のご参加を頂きました。

祝賀会の中で11日パネルディスカッション、外国人講師の紹介もあり、国際交流の場ともなりました。



合同オープニングイベント

6月10日～11日、(株)福岡ソフトリサーチパークと合同でオープニングイベントを開催しました。

1日目は、(株)ソフトヴィジョン中村正三郎氏が『インターネット最新情報』について記念講演を行いました。

2日目は、国連大学ソフトウェア技術国際研究所(マカオ)ディニス・ビョルナー所長が『様々な社会面に浸透するソフトウェア』について基調講演を行い、その後『東アジアにおける情報技術 - その動向と協調 -』についてパネルディスカッションを行いました。パネリストに中国華東理工大学居徳華教授、韓国浦項工科大学校姜教哲教授、(株)SRA専務取締役岸田孝一氏が加わり、当研究所研究室長荒木啓二郎教授がコーディネーターを務めました。



ごあいさつ



研究所長 長田 正

産学官共同・交流の重要性は改めていうまでもありません。どの分野でも同じだと思いますが、特に情報関連分野では技術の進歩が早く、新しいアイデアが次々に商品化されます。目まぐるしい技術の発展に対処し、新しい局面を開拓するためには、産学官共同体制の確立が不可欠です。

しかし、形だけの体制を作ってもなかなか期待するような成果が出てこないというのが現実です。その理由はいろいろあると思います。日本文化や社会風土の特殊性に深く根ざしているという指摘もありますが、結局のところ、基礎研究・萌芽研究を受け持つ大学側と、応用研究・実用化研究を分担する企業側の意識の問題、及び制度の問題に帰せられます。大学の研究者は、研究の範囲をアカデミックな領域から応用分野へ広げる努力をし、産業界は、基礎研究の成

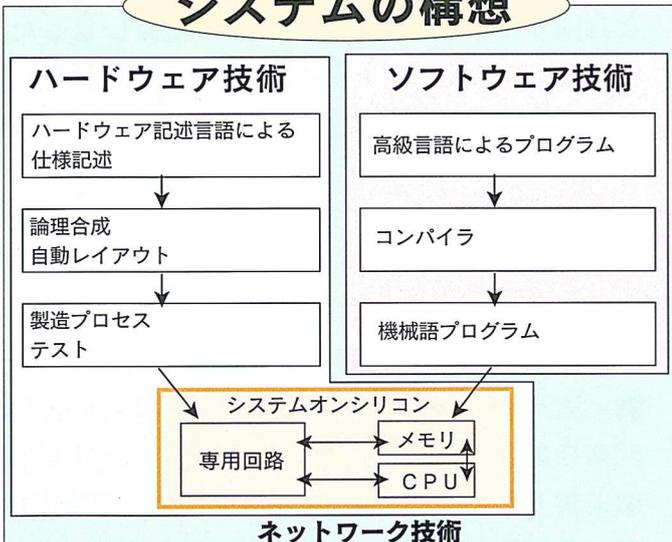
果を拾い上げ企業化すると同時に、問題点を基礎研究側にフィードバックする試みを積極的に行うべきなのでしょう。しかし、たとえ両者の目的意識がそろったとしても、問題が解決するわけではありません。基礎研究の成果を実用化するには資金、人手それに時間が必要です。しかしそこには、制度上の様々なバリアが存在します。

大学と産業界を結びつけ、これらの諸問題を解決するための糸口をつけるというのが本研究所の役割だと思います。アメリカのように多くのベンチャー企業が競い合う社会状況にはまだ至っていない日本で、本研究所の果たすべき使命は大きいと自覚しています。皆様方のご協力を心からお願いする次第です。

研究室紹介 (第一研究室)

室長	安浦寛人 (九州大学教授)
研究員	伊達 博
研究員	甲斐康司 (松下電器産業株式会社より出向)
研究助手	池兼次郎 (九州大学大学院博士課程在学中)
研究助手	岩下茂信 (九州大学大学院博士課程在学中)

システムの構想



これからのシステム設計は、最新のネットワーク技術を利用し、ハードウェア技術とソフトウェア技術を統合したシステム情報技術が基盤となる。

研究テーマ「システム設計の体系化」

コンピュータが進歩し、ネットワークの普及が進んで、最新の情報技術を利用した新しい情報機器が開発され、産業形態・市民生活・行政等の社会システムにおいても改革が望まれています。

そこで、家電製品や制御用機器などに内蔵される組み込みシステムの設計から大規模な産業・社会システムの実現・運用までの基盤となる情報技術を統合したシステム情報技術の構築が緊急の課題となっています。

第一研究室では、最新のネットワーク技術を利用し、ハードウェア技術とソフトウェア技術を統合したシステム設計の体系化の研究を通して、新しいシステム情報技術の確立を目指しています。

新スタッフ紹介

6月以降、富士通・松下電器産業からの研究員や九州大学・九州工業大学大学院博士課程の研究助手も加わり、総勢28名となりました。

所属	氏名
研究員	山崎 重一郎
研究員	甲斐 康司
研究助手	池 兼次郎
研究助手	岩下 茂信
研究助手	趙 建軍
研究助手	章 志華
事業部	渡辺 直子

合同オープニングイベント

6月10日～11日ISIT&SRP合同オープニングイベントは「最新インターネット/ソフトウェア事情」を基本テーマに記念講演・基調講演・パネルディスカッションを行った。

1. 記念講演

「インターネット最新情報」

(株)ソフトヴィジョン 中村正三郎氏

インターネットの従来型サービスから新型サービスへの変遷、この1年での急速な普及の背景および問題点、さらに今後の動向について Java 言語・イントラネットを中心にホームページ形式のパソコンプレゼンテーションにより説明された。質疑応答も活発に行われた。

2. 基調講演

「様々な社会面に浸透するソフトウェア」

国連大学ソフトウェア技術国際研究所所長 (マカオ)

ディニス ビオルナー教授

国連大学ソフトウェア技術国際研究所が開発途上国と共同で行っている鉄道・航空・国家予算・企業戦略・印刷出版などの社会基盤に対するソフトウェア開発を紹介し、各インフラにおいて成り立つ基本法則を説明し、それらの法則に則ったソフトウェア設計が重要なことを強調された。



中村正三郎氏



ディニス ビオルナー教授



居徳華教授



姜教哲教授



岸田孝一専務



荒木啓二郎教授

3. パネルディスカッション

「東アジアにおける情報技術

—その動向と協調—」

本研究所の研究室長を兼務する九州大学荒木啓二郎教授のコーディネーションにより、中国・韓国・日本・マカオの順で4人のパネリストから各国情報技術の動向と産学共同研究のあり方についての意見を交わした。各国とも高いレベルでソフトウェア設計ができるシステムインテグレーターの不足が特に指摘された。

I 中国 華東理工大学 居徳華教授

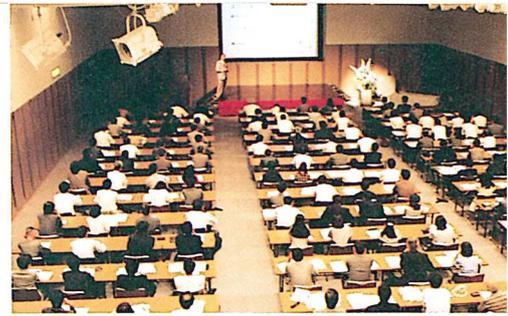
中国は第9次5か年計画においてゴールドプロジェクトを推進中である。これには全国規模の光通信網構築や金融・保険・商業部門のICカード化などがある。特に上海は21世紀には世界の経済・金融・貿易センターになりたいと考えている。しかし、現在情報技術に関しては外国に支配されている。

II 韓国 浦項工科大学校 姜教哲教授

韓国では121社が情報産業連盟に加入しているが、そのうち財閥グループに属する33社が全体市場の63%を占めている。産学共同では、教官が補助金のために研究領域を変えていく弊害が出ていたが、最近は大企業が大学のキャンパス内に研究所を設立し共同研究を進めている。

III 日本 (株)SRA 岸田孝一専務

日本の情報産業は不況からゆっくとと抜



け出している。しかし、ソフトウェア産業市場はアメリカに圧倒されており、人を育てていくことが重要である。日本では1987年に初めて産学共同のSDAプロジェクトを設立し、ようやく産学協調が定着してきた。

IV マカオ 国連大学

ディニス ビオルナー教授

情報技術の推進方法は中国がとっている国家主導型には反対である。あくまでも自由競争がその駆動力になるべきである。ソフトウェアは、量ではなく質であり、目減りすることもないので、大学と企業の協力や開発途上国への技術移転も重要である。



ももち発見

このコーナーではシーサイドももちのモニュメントや風景など“ももちの魅力”についてシリーズでお伝えします。

第1回は研究所の前で福岡市医師会館の角にあるオランダ製の鐘(カリヨン)です。

この鐘は平成4年4月から毎日コンピュータ自動演奏で鳴っており、今は朝9時、昼12時、1時、夕方5時に「富士山」「峠のわが家」「夕やけこやけ」の曲を奏でます。

一度聴いてみてはいかがですか。

現在、個人あるいは企業でインターネット上に WWW(World Wide Web) のホームページを持つことが盛んです。

このホームページのアドレスの表記法として、「URL=http://www.k-isit.or.jp」という表現などがよく見られます。そこで、今回は「URL」および「http://...」について説明します。

「URL」とは、「Uniform Resource Locators」の略で、インターネット上の資源(コンピ

— 情報キーワード — ホームページのアドレス

ュータやファイルなど)の場所の統一的な表示という意味です。

次の「http://...」のうち「://」は、区切りの記号で「://」でひとまとまりと考えて下さい。左側の「http」は、WWWで使われる「Hyper Text Transfer Protocol」というプロトコル(通信規約)を意味します。また、「://」の右

側には、その情報がインターネット上でどこにあるのかを記述します。

例えば、「URL」は「連絡先・接続先」という意味、「http」は郵便・TEL・FAX等のサービスの種類、「://」以下が住所(/ビル名/部屋番号)や電話番号(/内線)などに対応する部分と見れば、分かりやすいのではないのでしょうか。(川根)



●第4回定期交流会のご案内

- 日 時 平成8年8月23日(金)午後4時～6時半
- 場 所 福岡SRPセンタービル2階 視聴覚研修室
- 講 師 NTTマルチメディアネットワーク研究所・九州リモートオフィス
主任研究員 四宮 光文
- テーマ 『ATMネットワークとOCN』

ISDN(統合サービスデジタルネットワーク)を実現するための伝送方式であり、①効率がよい ②幅広い伝送速度に対応できる ③パケット交換・回線交換など異なるデータ交換方式を統合できる等の特徴を持つATM(非同期通信モード)ネットワークとNTTが今年10月に接続実験を計画しているOCN(オープンコンピュータネットワーク)サービスについて説明します。

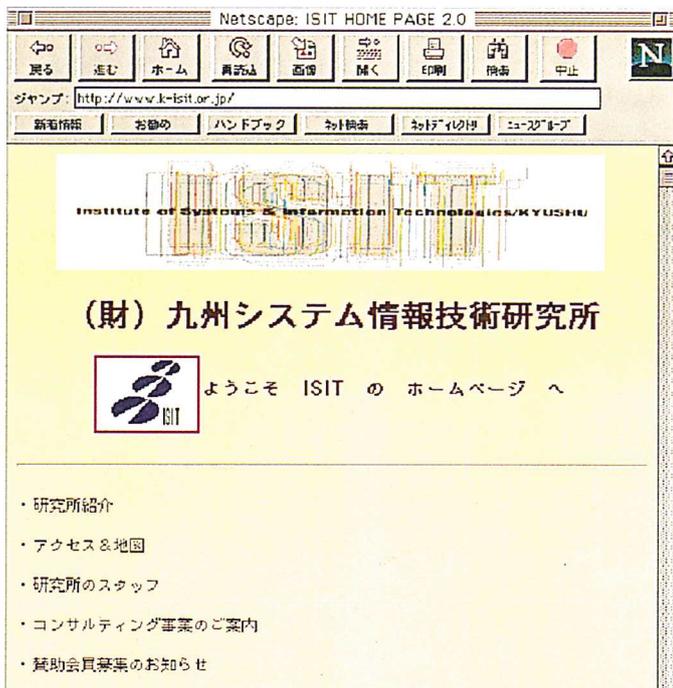
- 締 切 平成8年8月20日(火)
- 会費は懇親会費を含み2,000円です。どなたでも気軽にご参加ください。申込みは FAX または E-mailで事業部までお願いします。
- FAX 092-852-3455 E-mail : koryu@k-isit.or.jp
担当：鬼木、国生

ISITホームページ公開中!

6月にホームページを立ち上げました。研究所や事業内容紹介を始め、定期交流会やイベント情報も記載していますのでご利用下さい。ご意見ご感想は下記までお寄せ下さい。

E-mail : webmaster@k-isit.or.jp

URL : <http://www.k-isit.or.jp/>



●コンサルティング事業(技術相談)のご案内

九州地域の企業などがシステム情報技術分野において、独自では困難な研究開発・製品開発等に関する技術的諸問題を解決できるようお手伝いします。

企業などの相談内容により、当研究所および九州大学をはじめとする近隣の大学から、最適なアドバイザーを選任し個別調整を行います。

申込資格は、特に限定はありません。詳細は下記までお問い合わせ下さい。

相談窓口：研究企画部 岩永、川根
TEL 092-852-3460 FAX 092-852-3465
E-mail : cons@k-isit.or.jp

●新賛助会員紹介

【法人会員】 (株)SRA九州、日本システムスタディ(株)

【個人会員】 岸田 孝一

法人会員45社、個人会員4名となりました。

賛助会員募集中

◎賛助会員の特典

1. 研究所主催の講演会・研究会等への参加。
2. 研究所発行の研究誌・広報誌などの刊行物の配布。
3. 研究所保管の情報関係資料などの閲覧。
4. その他情報技術に関する相談、情報の供与。

◎賛助会費

年会費 ・法人会員1口 6万円
・個人会員1口 1万円

※入会手続の詳細問い合わせは、総務部へ。

TEL 092-852-3450 担当 橋本、木下

編集室より…第二号

第2号は開所式・合同オープニングイベントを特集しました。

本研究所も全員にデスクトップ型のマッキントッシュが設置され、外国との電子メールの交換や所内の伝言に使われるようになりました。また、研究所のホームページも開設されました。

東アジア諸国(上海・マカオ・韓国)をオープニングイベントの打合せで訪問しましたが、いずれも活気があり、翻訳ソフトやコンピュータグラフィックスの開発などに積極的に取り組んでいました。各大学でもパソコンがずらりと並んだ研修室・講義室が数多くあり、日本が教育面で遅れをとっているのではないかとさえ感じました。

シーサイドももちは、全国有数の福岡市総合図書館が開館し、RKBやTNCの放送局も進出してきて週末の散歩にはおすすめの場所です。創刊号で募集しましたこの広報誌のネーミングは、当研究所の英語表記 ISIT/KYUSHU と何をするとところだろうという意味を込めて『What IS IT?』に決まりました。今後とも『What IS IT?』をよろしくお願いします。

『What IS IT?』は春夏秋冬年4回発行予定です。これからも当研究所やももちの情報をお伝えしていきます。(事業部 鬼木)

